



第 1688 回例会

平成 24 年 1 月 23 日 (月)

12:30~ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」
 3. ゲスト紹介 海南省青少年センター
 センター長 綿野 茂身 様

4. 出席報告

会員総数 59 名 出席者数 38 名
 出席率 64.41% 前回修正出席率 71.41%

5. 会長スピーチ

会長 田村 健治 君



みなさん、こんにちは。昨日の毎日新聞に出ていましたが、一昨日の土曜日、和歌山ビッグ愛で、地区 1 組の I M (Intercity Meeting) が開催され、あの有名な「稻村の火の館」の館長さんが「浜口御陵と津波防災」と題して基調講演を行いました。東日本大震災で小中学生の多くが助かった岩手県釜石市の例を挙げ、「堤防などのハード面に頼るのではなく、防災意識や避難訓練などのソフト面も充実させるべき」と述べました。また全体会議で、「災害に備えてロータリーができる」とテーマに提言などを発表しました。我々の 2 組はどんなテーマになるのでしょうか？でも、2 組は開催しないかもしれません。

今日の話は、エネルギー問題と共に今後益々深刻化が予想される食糧問題、とりわけ「食の安全」についてです。一昔前までは、遺伝子というものは生まれながらに決まっている運命的なもので、それを人工的に換えること等は想像も出来ませんでした。それが今では操作することが可能になり、医療の世界では、遺伝子治療やクローン人間等の研究が進んでいます。

現在、日本の食糧自給率は 39% です。すでに日本の食糧の多くが輸入されていることは周知の事実ですが、先月から遺伝子組み換えパパイヤの輸入が解禁になっていることはご存知でしょうか？いわゆる飼料

用としてではなく、直接人が口にする物では初めての遺伝子組み換え作物になります。しかし、これらの作物について様々な議論がなされているものの、一番身近なはずの私たち消費者のもとにまでその情報の多くは届いていません。世界では、遺伝子組み換え作物は年々増

加の一途を辿っています。日本においては、95%を輸入に頼っているダイズを例に挙げると、主な輸入元の米国におけるダイズ栽培面積当りの遺伝子組み換えダイズの割合は 93% と、生産されるほとんどのダイズがこれらのダイズであることがわかります。ちなみに、トウモロコシの場合は遺伝子組み換えトウモロコシが 86% を占めます。日本は世界最大のトウモロコシ輸入国であり、そのうち 90% が米国産。つまり、日本の飼料用の穀物はほぼ全量がこれらの作物であるといつても過言ではないです。

これらの作物は、乾燥や塩害など不良環境でも栽培できる作物、害虫や特定除草剤に抵抗性を持つ作物として大きな期待が寄せられています。現在、すでに 10 億人以上の人々が栄養不足や飢餓状態にあること、さらに、人口増や食生活の高水準化などに伴い食糧問題がますます深刻化すると予測されていることが、期待への主な背景です。一方、これらの作物を食品として食べ続けても大丈夫かと子や孫など将来世代への影響が計り知れない点、また、これらの作物がその繁殖力の強さなどにより、既存作物の生態系を壊してしまうのではといった点など、長期的な問題による不安が拭い去れないといった懸念が存在しています。

現状としては、これらの作物が世界的に増加傾向にあるということ、そして今後、パパイヤのような遺伝子組み換え作物が日本に輸入されてくる可能、性が高いことに変わりはないでしょう。今話題の TPP 条約に加齢した場合、これらの作物に対する日本の安全基準や規制が通用しないといった問題が発生することも考えられますすでに海外では、イネやコムギの開発も進められているのです。よく知らない、聞いたことがないでは済まされない新たな食の安全を考える時代に突入しているのではないでしょか。



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
 ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南省日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：田村 健治 幹事：山畑 弥生 S A A：岩井 克次

6. 幹事報告

幹事 山畠 弥生 君

○例会臨時変更のお知らせ

橋本紀ノ川 RC 2月14日(火)→2月11日(土)

　　ホテル「いとう」IM4組

高野山 RC 2月17日(金)→2月11日(土)

　　ホテル「いとう」IM4組

(ホストクラブ 岩出RC)

○RLI(ロータリー リーダーシップ研究会)開催案内

I～パートIIIまでの3日間コースの構成で、以下とおり開催されます。終了者には認証状とバッヂが授与されます。希望の方はお申し込みください。

I. 2012年2月12日(日) 10:00～17:00(受付9:30)
りんくう国際物流センター TEL 072-469-5111

　　大阪府泉佐野市りんくう往来北2-21

II. 2012年2月26日(日) 10:00～17:00(受付9:30)
りんくう国際物流センター TEL 072-469-5111

　　大阪府泉佐野市りんくう往来北2-21

III. 2012年3月4日(日) 10:00～17:00(受付9:30)
　　スターゲイトホテル 関西エアポート
　　泉佐野市りんくう往来北1番地
　　TEL072-460-1111

7. ゲスト卓話

海南省青少年センター

センター長 綿野 茂身 様

みなさん、こんにちは。
お招きいただき、有難うござります。今日は「海南省青少年センターの現状」についてお話をいたします。

海南省青少年センターは、子供たちの健全な育成を目指して、非行防止・健全育成のための声かけによる街頭指導、青少年への有害な環境に対する浄化、地域における広報啓発活動などを行っています。

海南省下津町丸田の下津行政局1階にあり、現在、私を含め、教員OBの嘱託2名、指導主事1名、派遣警察官1名の計4名体制で学校、警察などの関係機関や地域のみなさんと連携し、活動しています。

最近の補導活動状況では、①不良虞犯少年、深夜徘徊326人(102人)、喫煙112人(9人)、怠学19人(19人)、その他4人(2人)＊()は4月～12月で深夜徘徊が多くなっています。ほとんどが警察のパトロール時の補導で、家庭に連絡します。②犯罪少年、触法少年としては、窃盗(万引き6件、自転車・単車盗1件)、軽犯罪(いたずら電話)4件、傷害1件、その他1件等)で、高校生による警察署へのいたずら電話がありました。全体的に少なく、特に、少年による万引きの認知件数が少なくなりました。③特別法違反少年は今のところ補導されていません。補導数には、青少年センターがかかわった事例の補導数を入れています。また、警察がかかわった事案で、その後、派遣警察官が扱った事案の件数も入っています。



一方、補導活動と啓発活動では、登校指導(小・中・高生他)と挨拶運動(一般市民を含む)として、休暇日を除いた授業日のみの月～金で、安全確保・挨拶運動、各小学校を日替わりで、7:30～8:30を行っています。このほか、安全確保・挨拶運動を行政局前、加茂郷駅を2班編成で実施しています。また、高校生の登・下校時の指導、加茂郷駅の待合時間中のマナーアップや駅周辺のパトロール。小学生の下校指導(青色回転灯による巡回パトロールを行っています。巡回コースは、①海南西部(黒江、日方、内海、大野小学校区)②海南東部(亀川、翼、北・中・南野上小学校区)③下津全域(加茂川、塩津・大崎・大東・下津小学校区)の海南市を上記の3コースに分けて、日替わりで主に14:00～16:30まで巡回パトロールしています。

補導活動では、夜間定例補導として、学校教諭と小・中学校区委員49名を7グループ(海南4、下津3)に分け、各班3回ずつ延べ21回実施。学・警・青夜間補導として、中・高校の先生、警察、各センター合同で夏休み中に2回実施。警察少年補導員との合同夜間パトロールを延べ11回実施しました。怠学生への補導では、遅刻・さぼり、早退生等。その他、下駄市・ふるさとまつり等の補導を行いました。

相談活動の状況は、生活指導(校内暴力・万引き・問題行動など)に対する相談等を行うほか、昨年11月1日から子どもメール相談開始し、現在までに2件の相談がありました。さらに、環境浄化活動として、立ち入り調査(書店・カラオケ店・パチンコ店)、管内の有害図書等の自動販売機の排除活動によって、現在、全て使用されていません。加茂郷駅前及び構内での清掃活動として、子ども達が迷惑をかけるゴミの始末を行っています。情報活動としては、昨年度より、不審者情報のメール配信を開始しました。今年度1件を配信。その他、防犯、不審者対策、生活指導(非行防止)、交通安全、薬物乱用防止等の教室、講演会を開催しています。また、月1回のセンターだより発行。175部を配布しています。関係団体との連携として、青少年センター運営協議会、補導関係連絡会議、青少年補導委員協議会、学警青連絡協議会、職警青連絡協議会の総会、研修会、運営、事務局(要項・資料作成、会の運営、会計、予算取り、事業仕分け等の業務)他市町青少年センター(全国・近畿・県・中紀)、警察、学校、公共施設・職場等になります。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

海南省青少年センター お気軽にご相談ください!

○所在地 海南省下津町丸田217-1

○電話番号 073-492-0162

8. 閉会点鐘

次回例会

第1689回例会 平成24年1月30日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

ゲスト卓話 JTB西日本営業第三課

第一グループマネージャー 丸山 孝志 様



国際ロータリー ニュース

2012-13 年度の RI テーマは 「奉仕を通じて平和を」

1月16日に行われた
2012年国際協議会の開
会本会議で、田中作次
RI会長エレクトが次年
度のRIテーマを発表し、
「奉仕を通じて平和
を」築いていくよう、
ロータリーの次期地区
ガバナーに呼びかけま
した。

「平和をどのように定義するにせよ、平和がロータリーにとって究極の、そして実現可能な目標であることをご理解ください。平和は、協定や、政府や、大胆な闘争だけで達成するものではなく、日常の簡単な仕事を通じて平和を」を発表した田中作次RI会長エレクト。



2012-13年度RIテーマ、「奉仕を通じて平和を」を発表した田中作次RI会長エレクト。



でこの言葉を使うにしても、ロータリーでそれを実現することができます」ビジネスで活躍し、埼玉県に在住する田中会長エレクトは、ロータリアンとなったことで世界観が広がった自らの経験について語りました。1975年に八潮ロータリークラブに入会後、収入や売上げを増やすことよりも、ほかの人の役に立つことが人生で最も大切だと思うようになったと話します。「どんな些細なことでも、人を助けることがいすれば平和につながることに気づきました」。



離せない伝統的な価値観」と語る田中会長エレクトは、この価値観が3月の東日本大震災後の復興努力にも

見受けられる点に触れました。「これは、日本以外の国々にとっても、良い教訓であると感じております。他者のニーズが、自分自身のニーズよりも大切だと思え、社会全体のための共通の目標に向かって力を合わせることができるようになれば、世界に対する見方、関わり方、価値観など、すべてが変わらるようになります。そして何よりも、平和というものに対する考え方方が変わります」。

田中会長エレクトはまた、RI 戦略計画の 3 つの優先項目への支援、ならびに広島、ベルリン、ホノルルで開催される 3 回のロータリー平和フォーラムの推進にも協力するよう、ロータリーの次期リーダーに呼びかけました。「ロータリーのビジネスは、利益の追求ではなく、平和の追求です。ですから私たちにとって、報酬はお金を手に入れる事ではなく、自分の努力によってより良い、より平和な世界が実現するのを見届けることがあります」

全世界のロータリークラブが 2 億ドルの募金チャレンジの目標を達成

国際ロータリーは、ポリオ撲滅を目的としたビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団からの補助金に応える

「ロータリーの2億ドルの
チャヤンレジ」の目標額2億
ドルをついに達成しました。
1月17日現在、募金総額は
2億260万ドルとなってい
ます。



ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団の最高執行責任者、ジェフ・レイクス氏。写真提供:Bill & Melinda Gates Foundation

ロータリー財団の管理委員を務めるジョン F. ジャーム氏は、サンディエゴで開催中の国際協議会で、次のように述べました。「私たちは、今回の達成を祝うべきですが、これで募金やポリオへの認識向上運動



一に授与された3億5,500万ドルのチャレンジ補助金に応えるため、ロータリーは、独自に目標2億ドルを集め募金キャンペーンを展開してきました。ポリオはワクチンで予防が可能であるにもかかわらず、現在も子どもたちがポリオに感染している国があります。集められた資金は全額、感染者が出ているこれらの国での予防接種の支援に充てられます。

目標達成のニュースに続き、ゲイツ財団の最高執行責任者であるジェフ・レイクス氏が、新たな追加補助金をロータリーに授与することを国際協議会で発表しました。「今回のロータリーの素晴らしい達成を称

えるとともに、皆さまのさらなるご健闘を願い、当財団は、さらに5千万ドルの追加補助金を授与することを決定しました。これにより、私たちのパートナーシップがさらに発展することを願っています。さらに、レイクス氏は次のように続けました。「世界からポリオを撲滅する活動は、ロータリーが始めたものであり、これからも、民間による募金や草の根の参加を促し、ポリオ撲滅を各國政府の優先項目として掲げてもうために、ロータリーが中心的な役割を果たしていくでしょう」。ゲイツ財団からの5,000万ドルの新たな補助金は、ロータリーからの上乗せ寄付を条件とするものではありません。



1988年以来、ポリオの発症数は99%減少し、年間35万件だった当初と比べ、2011年にはわずか650件となりました。現在、

野生ポリオウイルスは、4カ国（アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタン）のみに常在しています。このうち、インドでは、1月13日までの1年間、ポリオ無発症の状態を維持しており、常在国のリストから外される可能性が高くなっています。しかし、上記以外の国々でも、常在国からのウイルス流入による感染の危険が今なお続いている。アフリカ大陸では、2011年にチャドとコンゴ民主共和国でポリオが流行しました。また、同じく2011年、中国で10年ぶりに、少數ながらポリオの新たな感染者が確認され、このウイルスがパキスタンから流出したものであることが分かっています。

ロータリー会員は、ゲイツ財団からのチャレンジ補助金に応えて、自ら寄付をしたほか、それぞれの地域で工夫をこらした募金活動を行いました。これには、52,000ドルを集めたチャリティー・ファッショショーンショー（カリフォルニア）や54,000ドルを集めた映画上映会（ニュージーランドとオーストラリア）、38,000ドルを集めたキリマンジャロへの登頂チャレンジ（タンザニア）などがあり、イベントの多くは、10月24日の世界ポリオデーの前後に実行されました。全世界のロータリアンは、今回の募金キャンペーンだけでなく、ロータリーがポリオ撲滅活動を始めた1985年から現在までに、総額10億ドル以上を寄付してきました。1988年、世界保健機関（WHO）、ユニセフ、米国疾病対策センターが、世界ポリオ撲滅推進計画（GPEI）の主導団体として、ロータリーの取り組みに加わりました。また、最近この取り組みを大きく後押ししているゲイツ財団は、2007年にポリオ撲滅を目的としてロータリーに1億ドルの補助金を授与し、さらに2009年にこの額を3億5,500万ドルに引き上げました。ゲイツ財団からのこの補助金に応え、ロータリーは、2012年6月30日までに2億ドルを独自に募金してポリオ撲滅に寄付することを約束しました。

乏しいインフラ、遠隔地や紛争地域での予防接種、

撲滅活動に対する文化的な誤解など、撲滅への課題は現在も多く、ポリオウイルスが根強く残る国々では、すべての子どもに経口ポリオワクチンを投与するために、莫大な労働力とリソースが必要とされています。

RI会長が会員増強を優先課題に

カルヤン・バネルジーRI会長は、ロータリーの未来の基盤を形づくるため、すべてのロータリアンの責務である会員の増強を最優先課題として掲げています。



多忙なスケジュールで世界中を飛び回るバネルジー会長ですが、会員増強について次のように話します。「会員が多いほど、ロータリーが取り組める活動が増えます。

現在、会員基盤の年間成長率は5%ですが、仮に1人のロータリアンが2年間で1人の新会員を推薦した場合、会員数は50%増加することになります。いつでもどこでも会員の勧誘はできるものです。例えば、ロサンゼルスかバンコク行きの飛行機の中で、会員にふさわしいと思われる人に出会ったら、私はその方を会員として紹介するようになっています」バネルジー会長の例に倣い、家族、友人、仕事上で付き合いのある方などに、ロータリーへの入会を勧めてみてはいかが



でしょうか。会員候補者紹介のオンライン書式が新しくなりさらに使いやすくなりましたので、ぜひこの機会に会員候補者を紹介ください。この書式に入力の上、送信すると、RI本部がその情報を地区リーダーに転送し、地区リーダーが地区内の該当するクラブに情報を送るという流れとなっています。クラブがその候補者に関心を示した場合には、例会に招待することができます。

ロータリークラブへの入会に関心のある候補者が、直接書式を提出することもできます。また、移転先で新しいクラブを探しているロータリアンや、再入会を希望するロータリアンも、こちらから書式にご記入いただけます。自分が所属するロータリークラブに入会候補者を推薦する場合は、クラブ幹事に連絡するか、「新会員の勧誘はいかにするか」に収められている会員推薦用紙にご記入ください。

また、クラブ所在地検索機能や「ロータリーの情熱を分かち合いませんか」のバナーをクラブのウェブサイトやニュースレターに活用し、会員増強にお役立てください。クラブ所在地検索で自分のクラブが検索できない場合は、会員アクセスから、クラブの正確な住所を入力してください。

1月はロータリー理解推進月間です